

市販データベースソフトを用いた口腔管理について

○尾崎正雄、馬場篤子、高田圭介、本川 渉
福歯大・小児歯

【緒言】

近年歯科医療は、削る処置から口腔疾患の予防を目的とした口腔管理へと変わろうとしている。口腔管理を行うためには、コンピュータを利用した患者管理が便利であることは言うまでもない。最近のコンピュータは、処理能力および記憶容量共に大幅な進歩を遂げており、患者管理で必要な氏名、カルテ番号などの一般データや歯式、歯垢の付着状態ばかりでなく、患者の口腔内をデジタルカメラやビデオカメラで撮影した画像をも記憶出来るようになった。その反面、コンピュータの機能を十分に生かしきるには数種類のソフトを使いこなす必要がある。また撮影された画像を整理保存するためには、診療の片手間に行なうことは不可能である。そこで演者らは、これらの欠点を補うために、患者管理のデータベースの中に画像を取り込めるような機能を持ったソフトウェアの開発を行ったので報告する。

【方法および使用機器】

本データベースは、Macintoshにより作成された。使用したソフトはACI社製リレーションナルデータベースソフト4th Dimensionで、外部ルーチンにマルチメディアキットを使用した。

データベースの構成は、歯科医学上必要な情報を入力および管理するモジュールと画像を入力および管理するモジュールに分け、双方がリレーションナルデータベースにより連携をとりながら全体の管理を行っている。データは患者毎にホルダーに入れられ、ファイル名には患者番号、氏名、撮影年月日および撮影番号が記入出来るよう工夫した。

【結果および考察】

作成された口腔管理用データベースソフトは、患者管理および画像入力が簡単であり、診療室内でも容易に使用出来ると考えられた。また、画像を含めた口腔管理を行うことで、患者へのモチベーションやインフォームドコンセントを行うことが容易になると考えられた。今後は、臨床でのテストを重ねながら、より使いやすいソフトへと改造していくつもりである。

当院の院内 LAN システムの紹介

○今村 均
今村歯科医院（北九州市）

歯科診療を続けているとデンタル、口腔内写真など蓄積される画像情報は膨らむばかりである。また診療内容も削除から予防へと大きくシフトしようとしており、必要とされるデータは増加し説明に必要な資料も多岐にわたりはじめたと感じている。

ところで、このような情報をフィルムや紙への記載に残す従来のやり方で一番頭を悩まることは、その保管管理にあると実感されている先生方も多いと思われる。雑誌などにはそれらを整理する専用の部屋と棚を用意された先生方も紹介されている。しかしその投資額を考えると、保険診療を中心とする形態では簡単には実行できないところである。また、長期にわたりフィルムの劣化を避ける保存も難しい問題である。

さてこれらの解決方法の最有力候補は情報のデジタル化である。部屋一杯にあった情報が掌の上にのるようになることは決して夢物語ではない。この方法には、まずどのようにして情報をデジタル化するかという課題が生じる。これに対応して演者はデンタルにはモリタ製の Digora、口腔内写真はデジタルカメラを用いて撮影している。

またもう一つの課題として、どのようにして情報を効率よく保存し、目的とする情報を手際よく引き出すかということがある。そこで演者の診療所ではデータを格納するパソコン、さらに各ユニットにノートパソコンを設置し各パソコンの間でデータがやりとりできるようにした。通常これは LAN と呼ばれ、近年装置の低価格化がすすみ導入への壁は小さくなっている。